

題材の目標

- (1) 自分の感覚や活動を通して、身の回りの季節の造形的な特徴を理解するとともに、自分のイメージに合わせて、これまで使用した材料や用具などの経験や技能を生かして、工夫して表すことができるようにする。
(知識及び技能)
- (2) 身の回りの季節から表したいこと、表し方などについて考えたり、季節や季節を表した作品から造形的なよさや美しさについて考えたりして、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 主体的に季節を絵に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、身の回りの形や色などに関わろうとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

指導のポイント

○一人一人の児童が表したいことを見付けるための時間の保障 (※1)

校舎内や校庭、学校の周りなどを見て回り、感性を働かせながら、季節や季節の変化を感じ取ったり、感じ取ったことから想像したりして、表したいことを見付けるための時間を十分に取る。

○発想や構想の能力や鑑賞の能力を深めるための言語活動の活用 (※2)

発想や構想の場面では、児童が感じ取った季節や季節の変化のイメージを簡単なスケッチやメモに残し、発想のヒントとしたり、絵に表す過程では、表し方の工夫について友達同士で話し合わせ、構想を深めたりすることができるようにする。

また、鑑賞の場面でも、作品のよさや美しさなどについて友達同士で話し合うことで、作品に対する自分の見方や感じ方を広げることができるようにする

○児童が思い描いたイメージを工夫して表すことができるようにするための試行錯誤の時間等の設定 (※3)

児童の表したいイメージに合った表現方法を選んで表すことができるように、児童がこれまで経験してきたパスや水彩絵の具などに加え、木工用接着剤など他の材料と混合するなど新しい表し方を試行錯誤できるように、必要な時間や材料、場所を設定する。

○主体的な鑑賞と表現の活動を促す作品の掲示 (※4)

製作途中の作品を次の授業まで教室や廊下に掲示しておくことで、適宜、児童が自分や友達の作品を鑑賞し、友達の作品の工夫や表し方のよさや美しさなどに気付くとともに、次の表現活動の見通しをもつことができるようにする。



題材の指導計画

	児童の学習活動	指導上の留意点
1	○季節を表した絵を鑑賞し、そこに表された季節や季節の変化を感じ取ったり、表現の工夫などについて考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童が、自分なりに季節や季節の変化などを感じ取れるように、鑑賞する時間を十分にとる。(※1) 自分が感じ取った季節や季節の変化は、どこから感じられるのか、形や色などの造形的な特徴に注目して考えるよう助言する。 友達同士で話し合うことで、絵に対する自分の見方や感じ方を広げることができるようにする(※2)
2	○校舎内や校庭、学校の周辺などを見て回り、季節や季節の変化を感じ取ることができる形や色などを見付け、そこから表したいことを見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 季節や季節の変化を感じ取ることができる形や色を見付けに行くことを提案する。 小さく切った画用紙を準備して、表したいことを見付けたら、簡単なスケッチやメモに残すように助言する。(※2) 季節や季節の変化から表したいことを見付けにくい児童には、児童の思いを聞き、共感したり、一緒に身の回りの季節の形や色などを探してみるように促したりする。
3	○季節や季節の変化から感じ取ったイメージをどのように表すかについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表したいイメージや表現方法を広げるために、必要に応じて、友達とイメージを表す方法について交流する場をもつ。(※2) 表したいことを伝えるために、風景を切り取る、強調するなどのほか、実際にはなかったものを描き加えたり、実際とは違う色で表したりする方法もあることを適宜、伝える。 表したいことを「春」、「春から夏」、「夏」に分類し、表したいイメージと形や色などのつながりが分かるように整理して板書することで、発想のヒントとする。
4 5 6	○自分の表したいイメージに合った材料や用具を使って、工夫して絵に表す。	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージに合わせて、これまで経験してきた材料や用具の経験や技法から選んだり、新しい表し方を試行錯誤したりできるようにする。(※3) 授業の終わりに、製作途中の作品を教室などに掲示し、友達の表現なども参考にしながら、次の授業の見通しがもてるようにする。(※4)
7	○互いの作品のよさや美しさなどについて感じ取ったり考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 話合いが活性化するように、5～6人のグループをつくり、完成した作品について友達と話し合う。このとき、「絵から感じる季節や季節の変化」や「形や色などの表し方の工夫」といった話合いの視点をはっきりと示した上で、話し合う時間を十分にとる。 自分が感じたことを話しにくい児童には、簡単な言葉をメモに残したり、作品を具体的に指し示すなどジェスチャーで伝えたりするよう助言する。

展開例（本時4・5・6／7）

<p>本時の目標</p>	<p>自分のイメージに合わせて、これまで使用した材料や用具などの経験や技能を生かして、工夫して表すことができるようにする。</p>	
<p>導入</p>	<p>児童の学習活動</p>	<p>指導上の留意点</p>
	<p>○本時のめあてを確認する。</p>	<p>・自分の表したいイメージに合わせて、材料や用具を選び、表し方を工夫して表すことを伝える。</p>
<p>展開</p>	<p>自分の感じた季節や季節の変化を、表したいイメージに合った方法で絵に表そう</p>	
	<p>○自分の感じた季節や季節の変化のイメージを基に、表し方を工夫して絵に表す。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、次のような様々な表現方法を示しながら、児童が表し方を選んだり、組み合わせたりできるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵の具に木工用接着剤を混ぜる、割り箸などで描く ・表したい風景を切り取る、強調する形や色を選ぶ ・見たままに表す、想像したものを組み合わせる など ・自分の表したいイメージに合った表し方を試行錯誤できるように、小さな画用紙を準備し、必要に応じて試してよいことを伝える。（※3） ・自分の表したいイメージや表現方法を広げるために、必要に応じて、友達とイメージを表す方法について交流する場をもつ。（※2） ・表したいことが見付からない児童には、一緒にイメージや形や色などについて考えたり、友達の活動を手がかりに考えたりすることを勧めたりする。 ・思うように表現できない児童には、表したいイメージや思いを聞き、小さな画用紙に思い付いた表し方を試してみることを促したり、参考になりそうな表し方をしている友達を紹介したりする。
<p>まとめ</p>	<p>○製作途中の作品を教室等に掲示し、友達の作品の表し方の工夫などを参考に、次の表現活動の見通しをもつ。</p>	<p>・次の授業までに、適宜、教室や廊下に掲示された途中作品を見ておくように促し、自分の表したいイメージに合わせて、表し方を工夫して表すことができたか振り返るとともに、友達の作品の表し方の工夫などを参考に、次の表現活動の見通しをもつことができるようにする。（※4）</p>